

## 三井本館等の被災状況や、三井寄贈のバラック群を記録 「関東大震災映像デジタルアーカイブ」第6弾作品

### 『帝都大震災 大正十二年九月一日』（別題名『震災ト三井』）公開のお知らせ



左：『帝都大震災 大正十二年九月一日』（別題名『震災ト三井』）1923年 焼損した三井本館の正面や側面

右：『帝都大震災 大正十二年九月一日』（別題名『震災ト三井』）1923年 日比谷公園内に設置されたバラック

このたび、WEB サイト「関東大震災映像デジタルアーカイブ」（制作：国立映画アーカイブ、国立情報学研究所）に、第6弾作品『帝都大震災 大正十二年九月一日』（別題名『震災ト三井』）を公開する運びとなりました。

また、同日に二本のコラム（博物館明治村館長の中川武氏による「一瞬のバラックを求めて」、写真編集者の沼田清氏による「写真と映像にみる関東大震災」）を公開します。

#### 『帝都大震災 大正十二年九月一日』（別題名『震災ト三井』）（31分 | 1923年 | サイレント | 染色、白黒）

【作品概要】類焼により建物内部を焼失した三井本館等の被災状況と、三井の寄贈により建設された日比谷公園と上野不忍池畔のバラックの様子を紹介する。同一映像が若干編集を変えながら繰り返つながれているとともに、フィルム1巻目にあたる冒頭10分は、既存のフィルムからの重複によるものだが、中間字幕の枠飾りのデザインは一貫しているため、全体として1つの作品として取り扱われていた可能性がある。

#### 「関東大震災映像デジタルアーカイブ」とは (<https://kantodaishinsai.filmarchives.jp/>)

- ★1923（大正12）年9月1日に発生した関東大震災について、当館が所蔵する関連の映画フィルムなどの資料を公開するWEBサイト。
- ★「撮影場所」、「シーン（写されている事象）」で分類された「クリップ」単位での検索・閲覧が可能で、作品の詳細をより深く、横断的に見ることができるようになっています。
- ★関東大震災発生から100年にあたる2023年9月1日までに、当館で所蔵する関東大震災関連の全ての映画フィルムの公開を目指しています。
- ★『「関東大震災映像×専門知」によるコラムのページ』と題し、分野の異なる専門家が関東大震災映像を読み解くコラムの掲載し、随時更新しています。
- ★サイトで公開している関東大震災関連の映像に関する資料や、関東大震災と映像との関係を考えるうえで助けとなる資料を掲載し、随時更新しています。現在は、『関東大震災大火実況』の弁士台本など3点を公開中。

つきましては、ぜひとも本サイトのご紹介をご検討いただきますよう、お願い申し上げます。

【本件に関するお問い合わせ】

国立映画アーカイブ「関東大震災映像デジタルアーカイブ」広報担当  
電話：03-3561-0823/FAX：03-3561-0830/E-mail：kanto1923@nfaj.go.jp

## 『帝都大震災 大正十二年九月一日』（別題名『震災ト三井』）クリップ一覧



場所：中央／シーン：焼失、倒潰・損壊

延焼により鉄骨がむき出しになった三井本館の屋上を、三越の上階から見渡す。焦土同然となった周辺の様子も視界に入る。



場所：中央／シーン：焼失、倒潰・損壊

延焼により損壊の被害を受けた三井本館の正面や側面を映し出す。



場所：中央／シーン：焼失、倒潰・損壊

延焼により損壊の被害を受けた三井本館の内部を映し出す。



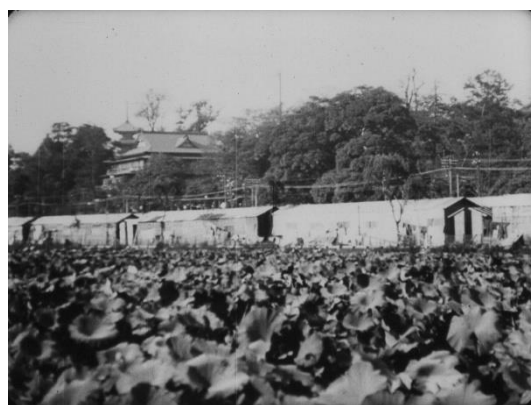
場所：中央／シーン：焼失、倒潰・損壊

三井 2 号館の損壊状況や本館入口付近での片付け作業が撮られている。米国ハーリンホール・マアヴィン社製の金庫は無事だった。



場所：千代田／シーン：避難生活の場

三井が建設し、臨時震災救護事務局が寄贈を受け、東京市に管理が委ねられた日比谷公園内のバラックと避難民の生活風景。



場所：台東／シーン：避難生活の場

三井が建設し、東京市に管理が委ねられた上野・不忍池畔のバラックの全景を映し出す。

【本件に関するお問い合わせ】

国立映画アーカイブ「関東大震災映像デジタルアーカイブ」広報担当  
電話：03-3561-0823/FAX：03-3561-0830/E-mail：kanto1923@nfaj.go.jp